

### 第3 問題作成部会の見解

#### 日 本 史 A

##### 1 問題作成の方針

試験問題は、これまで高等学校学習指導要領に準拠し、高等学校で使用する教科書を基礎として作成することとしてきたが、今年度もこの方針を踏襲して作問することにした。

- ① 問題数は、大問6問とした。第1問は、高等学校学習指導要領に対応して、「主題学習」に即した問題、第3問、第5問は、「日本史B」第5問、第6問と共通問題とした。
- ② 設問数は、平成21年度試験以来、36問から34問に減らして、受験者の負担を軽くしてあるが、本年度もそれを踏襲し、34問とした。主題学習の第1問が3問、幕末維新期の第2問が6問、近現代史の第3～第6問が25問とした。
- ③ 国際的視野を反映させた出題となるよう心掛けた。
- ④ 高等学校教科書の主題学習の「歴史と生活」に配慮し、第1問は「生活文化や地域社会の変化」に関連する出題とした。
- ⑤ 政治史・経済史・文化史・対外関係史などの各分野から出題し、バランスを取るよう心掛けた。
- ⑥ 文字資料・図版資料・地図・表・グラフを用いて考えさせる作問に心掛けた。
- ⑦ リード文と設問との関連性、下線部と設問との関連性に留意した。
- ⑧ 試験時間60分で解答できる問題を作成した。
- ⑨ 前年度に引き続き年代配列は6択としたが、難易度が高くなりすぎないように配慮した。

##### 2 各問題の出題意図と解答結果

出題意図は下記のようなのだが、解答結果は受験者少数のため記さないことをはじめにお断りしておく。

第1問 身近な生活文化や地域社会の変化を主題とし、日本の近代社会の成立・発展の大きな流れと結び付けながら、近現代史の基本事項を理解しているかを問うことを狙いとした。リード文は高校生の女子とその父との会話文にし、家族の身近な体験を通じて人々の生活のなかでどのようなことが起きたのかを述べる形式にして、社会や文化、政治、経済について幅広い問題を取り上げた。図版や表も効果的に用いられていると、高等学校教科担当教員からは好評を得た。

問1 リード文で取り上げた先祖の言い伝えを手掛かりに、明治維新期の政治と大正期の文化について問うた。基本事項に関する正確な知識が要求される出題であった。

問2 リード文で取り上げた、地域で大正期に起こった文化の変化を手掛かりに、近代日本の生活文化の変化について基本事項を問うた。解答は容易だったと思われる。

問3 国家公務員の初任給と耐久消費財の価格とを対比した表を素材として、戦後の生活水準の向上について、戦後史の基本事項と関連付けながら問うた。様々な材料から多面的に考え

る必要があったが、解答を導くこと自体は難しくなかったと思われる。

第2問 近世後期から明治前期の政治と外交に関わる文章と史料を掲げて、尊王攘夷運動から版籍奉還、廃藩置県に至る国内政治の展開と明治新政府の外交との関係を正しく理解しているかを問うことを狙いとしている。史料と文章は基本的かつ一般的なものとし、設問も理解度と学習到達度を測ることができるように配慮した。

リード文Aでは、幕末維新期における将軍継嗣問題について、「ちょぼくれ」を掲げながら、当時の政治・対外関係・社会経済についての設問に解答できるように作成した。

問1 日本とアメリカとの間で結ばれた修好通商条約について、その内容や時代背景について正しく理解できているかどうかを問う正文選択問題。和親条約と修好条約の違いが理解できていれば解答は可能である。

問2 13代将軍徳川家定の後継者について、史料を正しく解釈できているかどうか、将軍継嗣問題について正しい知識を得ているかを問う正誤組み合わせ問題。史料と注記を丁寧に読み込めば、容易に正解を導き出せる。

問3 日米修好通商条約が結ばれた時期の物価の動向をめぐって、幕府の政策や社会状況、商業統制組織について正しく理解できているかどうかを問う年代配列問題。幕末だけではなく、天保改革期について理解できているかどうかは鍵となる。

リード文Bでは、幕末から維新期における木戸孝允の政治家としての活動に触れながら、近世後期から明治前期の政治・文化・外交についての設問に解答できるように作成した。

問4 維新期に、木戸孝允を中心に進められた版籍奉還のなかで、江戸幕府から明治国家への制度変革がどのように実現していったかについて、正しい知識が得られているかどうかを問う空欄補充問題。正確な人名や単語がどれだけ知識として身に付いているかが問われる。

問5 近世後期から明治前期の学問や教育について、江戸時代の教育システムの特徴と近代における学校教育への移行過程を正しく理解できているかどうかを問う問題。近世の寺子屋・藩校と近代の公教育の違いが理解できていれば、容易に正解を導き出せる。

問6 明治政府が派遣した岩倉使節団について、その経路図を参照しながら、使節団派遣の理由や訪問経路、使節団のもたらした成果と課題について正しく理解できているかどうかを確認する問題。図を正確に読み取り、リード文を参照すれば、容易に正確にたどり着ける。

第3問 明治期のジャーナリスト・労働運動家である横山源之助の生涯に関する文章を掲げ、これを通して明治中期に資本主義経済が成立したことの意味を問いつつ、同時期の文化や東アジア情勢についての基本的な事項を問うことを狙いとしている。

問1 明治期の下層社会をうかがわせる著作と、同時期の労働運動に関する問題。基本的な事項を空欄補充として選択させるものであり、簡単に解答にたどり着けるものとして作成した。

問2 明治期の文化状況の特質を問うた問題。正文選択であり、教科書掲載頻度の高い文化・文学作品とその作者を取り上げることで、解答を得やすいよう工夫した。

問3 日清戦争前後の日本と東アジアとの関係において、歴史上重要な舞台となった都市の所在地を確認させる問題。地図を用いて空間認識を問うとともに、基本的事項についての説明

を加え、解答を得やすいよう工夫した。

問4 明治中期に資本主義経済が成立したことによってもたらされたことについて問うた問題。誤文選択ではあるが、教科書頻度の高い内容を尋ねており、また、誤文は明らかに誤りであるため、解答は難しくない。

第4問 明治期の「政商」について述べた文章を掲げ、明治政府と政商の関係を通して、富国強兵と殖産興業に関する経済、外交、政治についての基本的事項を問うことを狙いとした。

リード文Aは、政府からの特権・優遇でイメージされる「政商」に関して、企業家としての力量も必要だった点を説明し、明治期の経済、政治、外交に関する基礎的な知識を問うている。

リード文Bは、典型的な政商として取り上げられる三菱の発展について説明し、明治期の政治、経済に関する基礎的な知識を問うている。

問1 明治期の近代化に貢献したお雇い外国人について、人物と業績について正しい組み合わせを確認する問題である。

問2 明治期の対外関係について、朝鮮関係、条約改正、中国関係を通して確認する年代配列問題である。地域や対象を幅広く取り、明治期の外交について、全般的な理解をしているかを問うことを狙いとした。

問3 官営事業の払下げについて、対象事業と払下げ先の組み合わせを問う問題である。

問4 明治期の政治・経済に関する空欄補充問題である。三菱と関係の深かった大隈重信については、明治十四年の政変から類推させるようにした。

問5 明治期の高額所得者に関する表を読み取り、正誤を判定させる問題である。明治期に入っても旧藩主家の出身者が高額所得者の上位を占めていた点を確認するとともに、政商から財閥化していった四家についての知識を問うた。

第5問 近現代の日本をめぐる人の移動に関して述べた文章を掲げることにより、大正～昭和戦前・戦後の国際関係・社会・文化・政治・経済についての基本的事項について問うことを目的とした出題。リード文Aは、開国～明治・大正期に、日本・諸外国の間及び日本本土・近隣地域の間で双方向的な人の移動が生まれた経緯や、それにより生じた異なるエスニック・グループ間の接触・衝突が国際関係やナショナリズムに与えた影響を説明し、明治末～大正期の政治・外交・社会に関する設問に解答できるよう作成した。リード文Bは、昭和戦前・戦中期における人の移動が、当時の経済・社会状況の動揺と深く関わるとともに、日本の侵略と結び付き、また戦争が移民した人々の境遇を左右したことを説明し、この時代の外交・文化・社会・経済に関する設問に解答できるよう作成した。リード文Cは、戦後において、戦前・戦中までに行われた双方向的な人の移動が、敗戦と脱植民地化によって引き揚げをはじめとする大きな影響を受けたこと、独立後に国外移住が再開したことを説明し、昭和戦後期の社会・外交・政治に関する設問に解答できるよう作成した。

問1 明治末～大正期の政治・外交に関する基本的事項を問う空欄補充問題。

問2 明治末～大正期の外交について、第一次世界大戦の戦前・戦中・戦後の国際環境の変化と、日米関係と移民問題との関係から整理することで確認させる問題。

問3 20世紀前半の社会問題・民族問題の基本的事項について確認させる問題。

問 4 満州事変とアジア太平洋戦争の展開に関する基本的事項を確認させる問題。地図を用いることにより空間的把握ができているかに留意した。

問 5 昭和戦前・戦中期の文化について、大衆化の側面、及び戦時体制との関係という側面から確認させる問題。

問 6 昭和戦前期の経済・社会状況に関する基本的事項を確認させる問題。

問 7 戦後の社会・外交に関する基本的事項について確認させる空欄補充問題。

問 8 戦後の占領政策に関する基本的事項について確認させる問題。

第 6 問 大正・昭和期の電力及びエネルギー問題に関する文章を掲げ、これを通して同時期における経済、政治、社会、文化についての基本的な事項を問うことを狙いとしている。

リード文 A は、第一次世界大戦期から満州事変期までの日本の経済状況について電力を切り口として説明し、経済、政治についての設問に答えられるようにした。

問 1 長距離送電成功と新興財閥台頭という画期的な出来事を正確に認識しているかどうかを問うた。当該期の産業経済の動向について基本事項を理解していれば、正解を導き出せるはずである。

問 2 昭和初期に各内閣で取られた代表的な経済政策を理解しているかどうかを問うた。戦前の不況対策と戦後の経済成長政策についての正確な理解が求められる。

リード文 B は、日中戦争以降の経済統制と、戦後の経済民主化について電力を切り口として説明し、経済、政治、社会についての設問に答えられるようにした。

問 3 戦時動員において極めて重要な役割を果たした国家総動員法と、戦後の日本経済の在り方に影響を与えた過度経済力集中排除法に関する理解を問うた。戦時期の総動員政策や戦後の経済の民主化についての基本事項を理解していれば、容易に正解を導き出せる。

問 4 国家総動員法が、国民生活や経済にどのような影響を与えたかについての理解を問うた。戦時期の総動員政策についての基本事項を理解していれば、容易に正解を導き出せる。

問 5 戦後改革において重要な女性参政権の実現についての理解を、写真資料から読み取らせる問題。写真に記された文字情報からも正解が導き出せるはずである。

リード文 C は、戦後復興から高度成長までの電力及びエネルギー問題について、当時の映画シナリオを引用しながら説明し、経済、社会、文化についての設問に答えられるようにした。

問 6 高度経済成長期の文化を問う問題。大正・昭和期の文化について基本的な知識を有していれば、容易に正解が導き出せるはずである。

問 7 石炭から石油へのエネルギー転換が、経済、社会に与えた影響についての理解を問う問題。敗戦直後の経済復興及び高度成長とその歪みについての基本事項を理解していれば、正解が導き出せるはずである。

問 8 戦後から現代に至る電力及びエネルギー問題について、経済上の基本的な時期区分に関する知識を基に、グラフから読み取らせる問題。日本が経済大国化するプロセスを理解し、グラフを冷静に読み取れば、容易に正解が導き出せる。



### 3 出題に対する反響・意見についての見解

高等学校教科担当教員からは、基礎的・基本的な学習内容を基に、歴史的思考力を問う良問が出題された、出題形式・出題分野については全体的にバランスが良く、分量も適切、全体的に分野を横断した幅広い思考・判断を求める設問が多いと評価を得ている。また、史料・グラフ・地図・図版等を用いて「歴史的思考力」を問う出題の増加が、高校側の要望を受け止めたものと評価されたことは、部会の努力が理解されたものと受け止めたい。その一方、昨年度よりも難易度が上昇したと指摘された。また年代順配列での事象間の関連性の薄さ等も問題点としてあげられている。

教育研究団体からは、時代や出題形式のバランスなどの問題点を指摘され、出題分野の偏りへの配慮などが求められた。また「日本史B」との共通問題に、「日本史A」の受験者にとってはいささか細かすぎる内容が含まれていることなどを指摘され、「細かな事象や高度な事項・事柄」からの出題は避けるべきとの作題への要望が出された。

次年度以降は、上記の意見を踏まえ、難易度について一層の配慮をして平均点が上がるように努めるとともに、これまで同様、史料・グラフ・地図・図版等を用いて「歴史的思考力」を問う良問の作成に努力をしていきたい。

### 4 今後の問題作成に当たっての留意点

昨年度、作問上の留意点として以下の4点をあげた。①高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、平均点を上げるため、標準的な問題を作成するように一層心掛ける。②高校現場での授業に配慮する。③問題領域や設問形式のバランスや文字資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題を多く出題するように工夫する。④「日本史B」との共通問題の難易度について更に配慮する。

今後もこれらの諸点に一層留意し、また、今回御指摘いただいたことを踏まえ、問題作成を進めたい。

## 日 本 史 B

### 1 問題作成の方針

試験問題は、これまで高等学校学習指導要領に準拠し、高等学校で使用する教科書を基礎として作成してきたが、今年度もこれまでの方針を踏襲して作問することにした。

- ① 問題数は、大問6問とした。第1問は、高等学校学習指導要領に対応して、主題学習に即した問題、第2問は原始・古代、第3問は中世、第4問は近世、第5、第6問は近現代とした。第5問、第6問は「日本史A」第3問、第5問と共通問題とした。
- ② 前年度までの方針を引き継ぎ、設問数は36問とし、主題学習6問、前近代18問、近現代12問とした。
- ③ 国際的視野を反映させた出題となるよう心掛けた。
- ④ 高等学校教科書の主題学習に配慮し、第1問は「歴史の考察」を主眼とする出題とした。
- ⑤ 政治史・経済史・文化史・対外関係史などの各分野から出題し、バランスを取るよう心掛けた。
- ⑥ 文字資料・図版資料・地図・表・グラフを用いて考えさせる作問に心掛けた。
- ⑦ リード文と設問との関連性、下線部と設問との関連性に留意した。
- ⑧ 試験時間60分で解答できる問題になるよう留意した。
- ⑨ 前年度に引き続き年代配列は6択としたが、難度が高くなりすぎないように配慮した。

### 2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 高等学校学習指導要領「日本史B」「2 内容とその扱い (1)歴史の考察 イ 歴史の追究 (㉑)法制の変化と社会」で示された「様々な法制の特色や変化に注目して、各時代における法と人との関わりや法が社会に果たす役割について追求させる」にのっとり、徳政令を手掛かりとして、貸し借りの問題を取り上げ、各時代における経済と政治の関わりやその背後にある思想の特色、またそれらの変化などについての理解を問う設問である。

リード文Aは、徳政令を手掛かりとして、貸し借りの問題を具体的に取り上げつつ、経済と政治との関わりやその背後にある思想の基本に触れ、それらについての理解を古代から安土桃山時代について通史的に問う。

問1 古代における人々の負担についての理解を問う設問である。

問2 中世における経済に関わる資料読解力を問う設問である。

問3 戦国～安土桃山時代における政治・経済についての理解を問う設問である。

リード文Bは、徳政令を手掛かりとして、貸し借りの問題を具体的に取り上げつつ、経済と政治との関わりやその背後にある思想の基本に触れ、それらについての理解を近世から近代について通史的に問う。

問4 近世における経済に関わる法制についての理解を問う設問である。

問5 近世における政治改革に関わる人物についての理解を問う設問である。

問6 近代における銀行や経済政策についての理解を問う設問である。明治期の銀行や経済政

策についての理解が弱いことをうかがわせたが、高校関係者からは「全体の流れが理解できていれば、個別の年代等を覚えていなくても正答を導くことができる良問」という評価を得た。

第2問 原始・古代の全般にわたり、政治・社会・文化・国際関係等、幅広い分野から出題したもので、史料や写真を読み取って答える問題も含むよう努めた。リード文Aでは、矢じりに関する文章を素材に、旧石器時代から古墳時代にかけての原始時代全般について問うた。またリード文Bでは、三善清行の『意見封事十二箇条』の序文を素材に、飛鳥～平安前期の政治・文化について問うた。この史料は、多くの受験者にとって未見のものと思われるが、仏教伝来や桓武朝の造都に関する理解を問う好個の素材であり、出題に当たって読解の助けとなるよう詳しく注を記した。

問1 縄文時代の遠距離交易と弥生時代の墓制について、空欄補充の形式で問うた。

問2 旧石器時代から縄文時代への移行について、それぞれの時代の特徴を踏まえた基本的な理解を問うた。なお、近年の研究は、縄文時代の開始あるいは土器の出現をかなりさかのぼらせるが、その成果と背馳しないよう配慮した。誤答の多くは、縄文時代と弥生時代の特徴やその相違に関する理解不足が原因になっているものと思われる。

問3 古墳時代中期における文献史料からみた倭国の国際関係について、正確な理解を問うた。誤答の多くは、リード文下線部の「古墳時代中期」という時期には一致するが、内容が誤っている文章を選択したものであり、教科書にもよく取り上げられている基本的な史料に対する知識の不足が原因と思われる。

問4 仏教伝来と桓武の造都に関する基本的な知識について、史料文中の空欄を補充する形式で問うた。

問5 飛鳥・奈良・平安各時代の代表的な仏像について制作年代の順番を問うたもので、文化に関する基本的な問題と考えて出題した。受験者の文化史に関する学習が作品名などの暗記に偏っていて、歴史の流れに関する理解が不足しているのではなかろうか。

問6 10世紀における律令国家の変質について問うた問題。正文選択問題の中で、時期の違いによる誤文と、内容が間違っている誤文が混在していたため、正答を導き出すために時期・内容の両者にわたって正確な知識が求められた。

第3問 高等学校学習指導要領「日本史B」「2内容とその取扱い (2)原始・古代の社会・文化と東アジア」に示された「東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動向に着目して、古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽について理解させる。」及び、中世「2 内容とその取扱い (3)中世の社会・文化と東アジア」に示された「武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について、東アジア世界の動向と関連付けて理解させる。」にのっとり、各時代の流通経済の特色、外交・貿易の在り方などについての理解を問うた。

リード文Aは、平安・鎌倉・南北朝時代の流通貨幣の変遷について触れ、それに関連して政治・社会などの変動に関する理解を問うた。

問1 律令国家の貨幣発行、鎌倉時代の荘園支配・流通経済についての理解を問うた。貨幣にからめて、鎌倉時代の代銭納や戦国時代の貫高制など、それぞれの時代を代表する事象を設

問に取り込んだ。

問2 平氏政権の信仰文化や貿易政策についての理解を問うた。地図と組合せて設問を工夫した。

問3 建武新政における政治・政策について、その「復古」姿勢を示し、武士の離反を招いた主因としても著名な大内裏造営計画を取り上げた。

リード文Bは、室町・戦国時代の輸入品及びその代替産業について触れ、それに関連して室町・戦国時代の政治・社会などについての理解を問うた。

問4 室町時代的外交・貿易について、内実を理解しているかを問うた。

問5 南北朝・室町・戦国時代的外交・貿易などについて、それぞれの時期を代表する事象をあげて、年代配列を求めた。

問6 戦国時代の政治・社会などについて、基礎的な理解を問うた。

第4問 近世日本の政治・学術について述べた文章を掲げ、徳川幕府がキリスト教禁止を国是とした影響で、どういった国家や社会が生まれ、そうしたなかで日本人は何を創造してきたのか、この点に関する基本的な事項を問うことを狙いとして作成した。

リード文Aでは、16世紀後半から17世紀前半における政権の宗教政策が、国内外に与えた影響を説明する。これをとおして、当時の外交・経済・社会についての設問に解答できるように作成した。

問1 16世紀後半から17世紀前半の外交政策に関する事項を問うた。語句の組合せとして正しいものを一つ選ぶ問題で、基礎的な知識を問うものであった。

問2 17世紀前半における金融・商業の実状と政策について問うた。近世経済史の基本的な知識を問う問題であった。

問3 4代将軍徳川家綱の将軍在職中（17世紀後半）の社会状況について、特に武士の在り方について問うた。文治政治下での具体的な施策や、その推進過程における社会への影響についての知識を問うた。

リード文Bでは、近世の国際関係で重要な役割を担ったオランダ通詞に関する19世紀前半の史料を用い、史料を丁寧に読解させながら、対外関係・学術・情報についての設問に解答できるように作成した。

問4 通商相手の国々が日本国内で置かれた環境などについて、絵図を読み取りつつ理解度を問うた。長崎の唐人屋敷と出島の二つの施設のうち、前者については理解が十分であったが、後者についてはその機能の正誤判定が難しかったように思われる。

問5 海外からの学術・情報の受用に関する文章を、年代順に正しく配列させる問題である。各文章は、人物名とその事績についての情報を含んだものとした。

問6 日蘭関係で重要な役割を担ったオランダ通詞のうち、志筑忠雄の事績について、リード文Bとして用いた史料の内容にも踏み込みつつ問うた。

第5問 明治期のジャーナリスト・労働運動家である横山源之助の生涯に関する文章を掲げ、これを通して明治中期に資本主義経済が成立したことの意味を問いつつ、同時期の文化や東アジア情勢についての基本的な事項を問うことを狙いとしている。

問1 明治期の下層社会をうかがわせる著作と、同時期の労働運動に関する問題。基本的な事



項を空欄補充として選択させるものであり、簡単に解答にたどり着けるものとして作成した。

問2 明治期の文化状況の特質を問うた問題。正文選択であり、教科書頻度の高い文化・文学作品とその作者を取り上げることで、解答を得やすいよう工夫した。

問3 日清戦争前後の日本と東アジアとの関係において、歴史上重要な舞台となった都市の所在地を確認させる問題。地図を用いて空間認識を問うとともに、基本的事項についての説明を加え、解答を得やすいよう工夫した。高等学校教科担当委員からは良問との評価も得たが、地図と併せた学習が受験者の弱点であることが明らかになった。

問4 明治中期に資本主義経済が成立したことによってもたらされたことについて問うた問題。誤文選択ではあるが、教科書頻度の高い内容を尋ねており、また誤文は明らかに誤りであるため、解答は容易である。

第6問 近現代の日本をめぐる人の移動に関して述べた文章を掲げることにより、大正～昭和戦前・戦後の国際関係・社会・文化・政治・経済についての基本的な事項について問うことを目的とした出題。リード文Aは、開国～明治・大正期に、日本・諸外国の間及び日本本土・近隣地域の間で双方向的な人の移動が生まれた経緯や、それにより生じた異なるエスニック・グループ間の接触・衝突が国際関係やナショナリズムに与えた影響を説明し、明治末～大正期の政治・外交・社会に関する設問に解答できるよう作成した。リード文Bは、昭和戦前・戦中期における人の移動が、当時の経済・社会状況の動揺と深く関わるとともに、日本の侵略と結びつき、また戦争が移民した人々の境遇を左右したことを説明し、この時代の外交・文化・社会・経済に関する設問に解答できるよう作成した。リード文Cは、戦後において、戦前・戦中までに行われた双方向の人の移動が、敗戦と脱植民地化によって引き揚げをはじめとする大きな影響を受けたこと、独立後に国外移住が再開したことを説明し、昭和戦後期の社会・外交・政治に関する設問に解答できるよう作成した。

問1 明治末～大正期の政治・外交に関する基本的事項を問う空欄補充問題。

問2 明治末～大正期の外交について、第一次世界大戦の戦前・戦中・戦後の国際環境の変化と、日米関係と移民問題との関係から整理することで確認させる問題。

問3 20世紀前半の社会問題・民族問題の基本的事項について確認させる問題。

問4 満州事変とアジア太平洋戦争の展開に関する基本的事項を確認させる問題。地図を用いることにより空間的把握ができているかに留意した。

問5 昭和戦前・戦中期の文化について、大衆化の側面、及び戦時体制との関係という側面から確認させる問題。

問6 昭和戦前期の経済・社会状況に関する基本的事項を確認させる問題。

問7 戦後の社会・外交に関する基本的事項について確認させる空欄補充問題。

問8 戦後の占領政策に関する基本的事項について確認させる問題。

### 3 出題に対する反響・意見についての見解

高等学校教科担当教員からは、問題の分量は適切であり、全般的には基本的な設問が中心であったこと、各時代の特色と時代を超えた大きな流れの両方を捉えさせる出題になっていること、分野

別では、全体的な出題バランスは昨年度より向上していること、リード文がよく練られ、出題者のメッセージが伝わることなどの評価を得ている。これらは出題者の出題方針が妥当であることを示していよう。その一方、細かい事項に踏み込んだ設問などに、改善の要望がなされた。

教育研究団体からは、時代的には原始・古代から近現代まで満遍なく出題されており妥当であるが、社会経済分野からの出題が多く、受験者にとっては難しく感じたであろうとの指摘があった。

部会としては、改善の指摘を受けた諸点について一層配慮した出題を心掛けるとともに、「歴史的思考力」を問う良問の作成について、今後とも努力したい。

#### 4 今後の問題作成に当たっての留意点

昨年度、作問上の留意点として以下の4点をあげた。①高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。②高校現場での授業に配慮する。③問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するように工夫する。④「日本史A」との共通問題の難易度について、更に配慮して作題する。

今後もこれらの諸点に一層留意し、また、今回御指摘いただいたことを踏まえ、問題作成を進めたい。